

みいな

みんなで いっしょに なかよく **Vol.26**
2011.12.5

- 1 男女の人権の尊重
- 2 社会における制度又は慣行についての配慮
- 3 方針の立案及び決定への共同参画
- 4 家庭生活における活動と他の活動の両立
- 5 男女の生涯にわたる健康の確保
- 6 国際社会の動向を踏まえた取組

育児 = 育自

子どもはみんな一人ひとり違うので、いろいろな育て方がある。自分も子どもと一緒に成長していけたらいいなあと思います。

初めての小学校入学を控え、不安がいっぱいでしたが、先輩ママたちのお話を聞いて、少し解消されました。

皆さん悩みながら、頑張っている。我が家だけではないんだと安心しました。

親は、子どもの鏡。毎日を大切に、愛情を持って接していけば、きっと優しい子になると思います。

教育 = 共育

今回で4度目の就学時検診です。最近思うことは、人生の中で手をかけて子育てをする時期は、少しだけということ。たくさんの愛情を注いであげたいです。

就学時健診 親学習に参加された
保護者の方々の感想です。
素敵な発見をたくさん共有し
ちょっと昔の「井戸端会議」のようですね。
(P4も併せてご覧下さい)

もくじ

・次世代人材づくり事業報告.....	P2~3
・誰もがきらりセミナーステップアップ編.....	P3
・親学習って?、お知らせ.....	P4

日本女性会議2011 松江大会報告

2011.10.13 ~ 10.15

～ 語ろう・紡ごう、“だんだん”の縁を世界へ～

栃木県では、地域に貢献する実践的な青年リーダー及び女性リーダーの育成をめざし、「栃木県次世代人材づくり事業」を市町と共同で実施しています。那須塩原市から研修に参加した、臼井優子さんの報告です。

「県次世代人材づくり事業」は8月から研修が始まり、県外研修として、歴史を感じる「松江」の地で開催された「日本女性会議」に参加しました。凝縮された3日間的一端をご報告いたします。

I 主な研修内容

(1) 長岡塗装店施設訪問(島根県松江市)

～ 中小企業でワーク・ライフ・バランスの先駆けを～

「働きやすい環境づくりで、若手社員の定着と技術伝承の推進」を掲げ、早くからワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を推進されたとのこと。十数年前、同社にとって人材の確保・定着はとても深刻な課題であった。そこで、従業員一人ひとりの顔を思い浮かべて、仕事に集中できる環境づくりを進めてきた。休暇制度の整備・企業の若返り・助成金の有効活用など、女性常務の手腕によるところが大きかったとのこと。経営者としての理想を求め惜しまぬ努力が、信頼関係と安心して働ける職場環境の提供、会社の姿の変容に繋がったとのこと。「ワーク・ライフ・バランス大賞」「子どもと家族を応援する日本」など数々の表彰を受賞されている。



～ 熱心な語りに、五感を使って、聴く～

(2) 分科会「グローバル化と共生社会」

～ 国境を越えて、女性から始まる、新しい教育観・新しい生き方～

「多文化共生」の分科会では、韓国での公的教育機関ではなく、「代替教育」での学習事例の提言が行われた。代替教育は「女性学」に関わってきた女性たちが、既存の公教育の画一的な教育方法を批判的に顧みる中で模索し、創り出したものであるとのこと。日本での「フリースクール」に似たところがあるが、国・企業・大学が積極的に支援しているところに相違がある。

次世代の教育を考える上で、誰もが多様な生き方を選ぶことができるような社会を求めて、闘ってきた成果を語っていた。

(3) 全体会

基調報告「男女共同参画社会の実現をめざして」

シンポジウム「松江から発信！ジェンダー平等をめざして」

～ 全体会場入り口、熱く～



～ 第3次男女共同参画基本計画を暮らしに活かす～

国の施策が「めざすもの」を拝聴した。これまでとの主な相違は、女性の積極的参加が経済性を高めること 女性の幹部・管理者登用 ポジティブアクションの強調 ということである。また、育休中にも熟慮した上で仕事を与え、男性との資質の差を埋めるようにすること、中学生から理科教育への興味関心を持たせるよう図っていくことなど、具体的動向も知ることができた。



松江の伝統文化 = 不味流の祖 =

II 感想・・・

長年、女性問題・地位向上にご尽力されてこられたであろう方々に出逢い、勇気と元気をいただくことが出来ました。全国大会の持つ熱気の中、基調報告などでは、国の施策の「今」を直接拝聴できたことは新鮮でもあり、今後に生かせる課題となりました。

松江の地が醸し出す日本歴史に由来する文化に触れ、心が和む思いがいたしました。

タクシー運転手さんの雲伯方言らしい言葉にほっこり。

「だんだん」は元々近世(安土桃山～江戸時代)後期に京都で使われていた言葉(段々、重ね重ねの意)ありがとうの頭のみが残ったものということです。

歴史・文化に裏打ちされた、ステージを飾った松江の花「牡丹(日本一)」。秋なのに満開に咲く高度な生産技術に(世界に輸出)島根のそして日本の底力を垣間見た思いです。

土地も 物も そして、人も「一期一会」なり。



共生社会へのステップ

ワクワク倍増計画

誰もがきらりセミナー
ステップアップ編(全3回)

Open the Window ひらけ 心の窓!

誰もが、いきいきと輝ける社会を目指して女性も男性もさらに自分を磨くための講座です。自分の枠をちょっと広げて、ワクワクする未来を広げてみませんか。3回連続講座となりますので、続けての受講をお願いいたします。

回	開催日	テーマ	講師 / 会場
1	1 / 14(土) 13:30 ~ 16:00 お茶会 16:00 ~ 16:30	自分の声、相手の声を聴いてみる ～自分の思考パターン、行動パターンを知る・気づく ことでコミュニケーションが変わってくる～	講師:小出ゆきこ氏 Happy Woman クリエイター 会場:西那須野公民館
2	1 / 21(土) 10:00 ~ 12:10	ありのままを認めて、伝えてみる ～自分のなかに眠る気持ちを大切な人に 伝えてみることで、みえる世界が変わってくる～	
3	1 / 28(土) 13:30 ~ 16:00 お茶会 16:00 ~ 16:30	ココロと脳を自由に旅させてみよう ～私の可能性はまだまだある! みんなで自分を自由に表現してみよう～	

定員: 40名 受講料: 無料(ただし、1、3回目はお茶代として各回200円を頂戴します)

対象: 入門編セミナー修了者、パルティ等の基礎コース修了者

申込締切: 平成23年12月28日(水【定員になり次第締切】)

保育: あり(満1歳～小学3年生まで) 無料 保育定員: 3名程度

申込み、問い合わせ先: 市民協働推進課 男女共同参画係 ☎0287 - 62 - 7019

親学習って？

保護者同士が交流を図りながら、自分自身の子育てを振り返ったり、子育てに必要な知識やスキルを主体的に学ぶことができる、栃木県独自の参加型の学習プログラムです。家庭教育オピニオンリーダー等が進行役となって、就学時検診の際に、子どもたちが検診を受けている待ち時間(約1時間)を利用して実施されています。

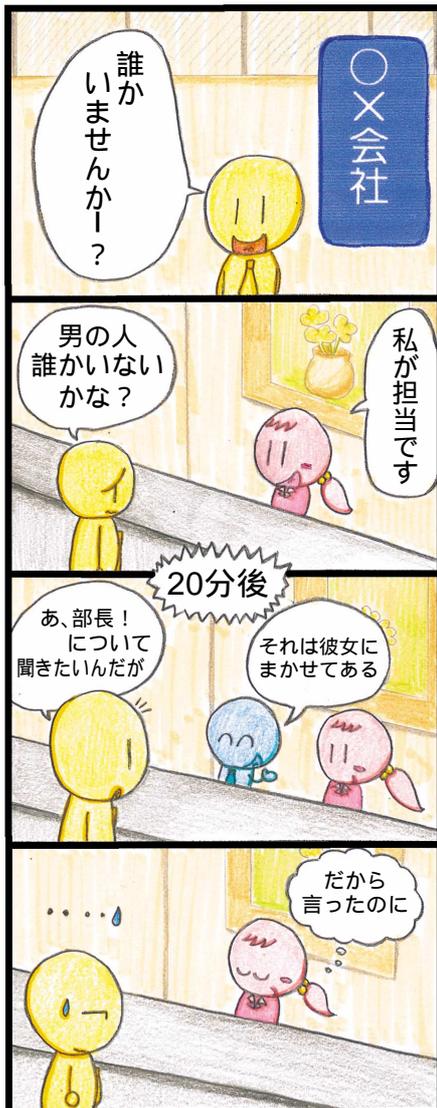
取材を終えて

父親の参加も増えていますが、まだまだ協力体制は十分ではなく、育児の多くが母親にまかされ、孤立しがちな現状もあります。

親学習の中で、『言葉ではなく、心の会話として「抱きしめる」という行動の大切さ』が言われていました。心の会話は、子どもの記憶にもずっと残り、人を思いやる心に通じるものなのではないでしょうか。参加された人の感想に、「今日帰ったら一番に、子どもを抱きしめたいと思います。」と書かれていたのが印象的でした。親学習プログラムは、次世代の子どもたちと親たちのことを思うからこそ出来る活動だと、事前打合せからの取材を通して強く感じました。

子どもを育てるという事は、地域、家庭が協力し合いながらの仕事です。完璧な人はどこにもいない、ピンチの時こそ家族や友人の絆で乗り切る。そして、この様な活動が、次世代へつなげる一歩であると感じました。

私におまかせください



作:TAKEちゃん 絵:daisuke

第2次那須塩原市男女共同参画行動計画(素案)に対するパブリック・コメントを実施しています!

那須塩原市では、「那須塩原市男女共同参画行動計画」に基づき、男女共同参画施策を総合的かつ計画的に推進しています。現行の行動計画の計画期間が平成23年度で終了することから、「第2次那須塩原市男女共同参画行動計画」の策定を行っています。策定に当たり、行動計画(素案)に対する市民の皆さまからの御意見(パブリック・コメント)を募集しています。

意見募集期間:11月21日(月)~12月20日(火)

意見を提出できる人:市民及び市内に勤務又は在学している人、市内に事務所、事業所を有する人または法人(団体を含む)

行動計画(素案)の閲覧、意見の提出方法等、詳細については、市ホームページを御覧いただくか、下記までお問い合わせください。

【問い合わせ】市民協働推進課 男女共同参画係

電話0287-62-7019

皆さまのご意見をお待ちしています。

編集後記

仲間がいると、良いことが何倍も楽しくなります。仲間が大勢いると、良いことが何倍も何倍も楽しくなります。仲間がいると、イヤなことがあってもすぐ忘れられます。仲間の笑顔は、生きていくのに絶対に「必要な宝物」なんですね。

そして、みんなにとって、良き仲間のあなた。あなたの笑顔が、みんなの宝物なんだと思います。

編集/みいな編集委員会 発行/那須塩原市企画部市民協働推進課
編集委員/上野 宏美、左近 剛、平井 あけみ、藤崎 清、柳場 美枝子、渡邊 小夜子
〒325-8501 那須塩原市共壘社108番地2 TEL0287-62-7019
mail:kyoudousuishin@city.nasushiobara.lg.jp